

◆地域活動

トコブシ養殖指導Ⅳ

城 間 一 仁・與那嶺 盛 次

1. 目的

トコブシは、ミミガイ科の巻貝でアワビと同じ仲間である。味はアワビに似て美味で、商品価値が高い。当普及センターでは、養殖グループや漁協等に配合餌料を使用した種苗生産から養殖までの一貫した技術指導を行い、トコブシ養殖の定着を目指している。ここでは昨年度に引き続いて実施した平成16年度の養殖指導について報告する。

2. 指導結果及び考察

(1) 糸満漁協介類養殖研究会

養殖指導：養殖していたトコブシはすべて出荷し、今期限りでトコブシ養殖から手を引くこととなった。

平成15年7月に養殖場は完成したが、防波堤の隙間等、台風時に未だ籠の流失や破損がある。安価で丈夫な小割式籠を検討する必要がある。

種苗生産指導：平成15年11月5・6日に採卵したトコブシ種苗(波板取り上げ時27万個)を(有)華一へ殻長8~14mmサイズ1万8千個を7円/個、殻長14~20mmサイズ1万5千個を15円/個で出荷した。その際、受け取り先の台湾にて斃死があり金銭トラブルがあったため、種苗の取引については現金取引する必要がある。また、浦添・宜野湾漁協へ2千3百個(平均殻長22mm)を0.5円/mmで出荷し、全体で375,115円(3万5千3百個)を売り上げた。

(2) 浦添・宜野湾漁協魚類養殖グループ

養殖指導：平成16年7月1・2日に糸満と具志川より購入した平均殻長22~23mmのトコブシ種苗5千個を養殖籠25籠に2百個ずつ収容した。本養殖試験は、国場組が船置き場として使用していた非常に静穏な場所で台風対策

が可能ではあるが、いまだにバージ船が停泊しており、台風時に一番良いと思われる場所が使用できない状態である。小割式籠は、モジ網を使用しているため作業性が良い。2~3日に1回トコブシ用配合餌料を給餌し、殻長5cmサイズを目安に試験出荷する。試験区としてモジ網製小割式養殖籠2籠、ネトロン製小割式養殖籠2籠を設定し、11月2日に測定を行った結果、改良型小割式籠で平均殻長24.6mmと24.2mm、従来式で26.7mmと26.9mmとなり、従来式より極端に成長が悪かった。籠内には大量にアイゴ等が入っており従来式に比べて目合いが大きい分改良型に多く、トコブシ用配合餌料を食べていると思われるため、すべて除去した。また、シェルターの位置が低く、トコブシの移動の妨げになっていると考えられることから位置を高くした。籠、シェルターの汚れも目立つので、定期的な掃除の徹底が必要である。

(3) 北谷漁協魚介藻類養殖部会

今年度は、埋め立ての影響による海況変化の影響で海上での養殖が出来なくなっている。富山氏は、現在ある10トン水槽2面に加え10トン水槽4面を増設し、種苗生産から養殖までを行う予定である。漁港用地の養殖用地への転用が完了しており、養殖施設増設のための準備がなされている。防衛施設局による取水管設置の計画も進行中である。

(4) 具志川市磯根資源活用研究会

種苗生産指導：平成15年11月17日に採卵したトコブシ種苗(波板取り上げ時5万個・1月)を石川市漁協泉氏へ1万5百個(平均殻長22.5mm、内3千個は無償提供)、伊是名漁協へ4百個、浦添宜野湾漁協へ2,千7百個(平均殻長23mm)、伊江漁協へ4千8百個(平

均殻長23mm)を出荷し、174,560円(1万8千4百個)を売り上げた。伊江島に出荷した際、梱包途中で保冷剤の入れ忘れがあり6千個のうち1千8百個の斃死があった。夏場の輸送は特に温度上昇に気を使う必要があり、確実な梱包作業を行う必要がある。

平成16年11月30日に採卵を行い、約1千万個強の受精卵を得た。途中、泥の流入やコペの発生等があったが、適正な処理によって順調に成長している。2月現在、波板1枚当たり2百個以上の稚貝が付いており(殻長約2~3mm)、3月には10万個強を取り上げる予定である。

本施設は規模が小さいことから種苗生産数に限界がある。4t水槽2面に波板400枚では20万個が限界で稚貝の成長も遅いため、規模拡大による生産数の増大と飼育期間の短縮を図る必要がある。

(5) 石川市漁協

養殖指導：平成15年11月8日に具志川にて採卵したトコブシ種苗10,500個(平均殻長22.5mm)を導入し5月24日より垂下式養殖を開始した。泉氏はトコブシ養殖の手伝いとして荷川取氏を雇用している。夏場の高水温と台風の影響で、約半分が斃死している。現在、赤土対策として二重底(上げ底)式の垂下式籠を試作し試験中である。また、夏場の高水温対策として、冷却装置を利用した陸上養殖も検討中である。

現在、新規漁業権の漁場で養殖を行っており、冬場や台風前後の時化している期間(5~7日間)全く管理が出来ない状態である。また、台風時の漁港内における畜養も10,000個が限界であり規模拡大に支障が出ているため、新規漁場の開拓や造成が望まれる。

(6) 伊是名村漁協

養殖指導：観光連携型養殖整備事業で陸上養殖棟及び種苗生産棟を整備した。平成16年5月27日、平均殻長22.5mmの種苗を使用

して養殖棟におけるトコブシ養殖試験(亜鉛トブ漬け影響調査試験)を実施した。試験区は従来方式(亜鉛トブ漬け枠使用)エア注入区3籠(各30個収容)、従来方式(亜鉛トブ漬け枠使用)エア無区3籠(各30個収容)、比較対象(亜鉛トブ漬け枠無)エア注入区3籠(各30個収容)、比較対象(亜鉛トブ漬け枠無)エア無区3籠(各30個収容)の4区であった。従来方式(亜鉛トブ漬け枠使用)エア無区が酸欠のため斃死したが、その他の試験区は順調に成長したため、亜鉛の影響はないと考えられる。

平成16年12月中旬より平成15年11月採卵群約1万個及び平成16年5月に採卵したトコブシ種苗約6万個を養殖棟で飼育開始した。平成15年11月採卵群ですでに出荷サイズ(殻長5cm以上)に達したトコブシは種苗生産棟で飼育し、島内で販売した。

種苗生産指導：平成16年5月2日から3回採卵を実施し、波板から約20万個の稚貝を剥離した。付着珪藻の培養が不十分であった。平成16年9月10日現在、殻長15mm前後の種苗約10万個を中間育成していた。その内約6万個(殻長16mm以上)の種苗は、前述したように12月養殖棟に移送した。

なお、平成15年11月に採卵した種苗の内約40万個(殻長8~14mm)は平成16年4月に1個当たり7円で台湾に出荷した。販売総額は約280万円であった。平成16年11月9日~11日に採卵を実施し、平成17年1月波板から約70万個の稚貝(殻長約5mm)を剥離した。

(7) 伊江漁協

養殖指導：観光連携型養殖整備事業で陸上養殖棟及び種苗生産棟を整備した。平成17年1月現在、養殖棟(台湾方式)で約6万個のトコブシを養殖しており、大量へい死もなく比較的順調に成長している。今年度の夏期には養殖棟の水温が30.5℃まで上昇した。主な上昇原因が、取水ポンプから養殖棟まで配管

魚(亜鉛
試験区
一注入
トブ漬
)、比
区3籠
付枠無)
であっ
ア一無
試験区
ないと

年11月
採卵し
育開始
出荷サ
は種苗
から3
の稚貝
であっ
mm前後
その内
述した

種苗の
6年4
、販売
年11
17年
約5mm)

で陸上
成17
万個の
もなく
夏期に
主な
で配管

されている塩ビパイプに直射日光があたり水温を上昇させていたことから断熱用塗装剤を塗り水温の上昇を抑えた。

一年を通した養殖を経験し、恩納村漁協に殻長5cm以上の活貝80kg(約4千個)を1kg当たり3,500円で販売し、その他にも島内の居酒屋等に出荷している。平成17年3月で販売金額は100万円を超えた。

種苗生産指導：平成16年4月26日採卵を実施し、波板から約1万個の稚貝を剥離した。採卵前に親貝が放精させてしまったため、十分採卵をすることができなかった。中間育成後の平成16年8月に殻長2cm以上で養殖棟に移送した。中間育成はトコブシ種苗用配合飼料で行った。

なお、平成15年11月に採卵した種苗約8万個を平成16年5月に1個当たり7円で台湾に出荷した。販売総額は、約56万円であった。平成16年11月4日～6日に採卵を実施し、波板から約10万個の稚貝(殻長約5mm)を剥離した。



トコブシ種苗生産施設
(糸満漁協介類養殖研究会)



トコブシ養殖海域と養殖筏
(浦添・宜野湾漁協魚類養殖グループ)



トコブシ改良型小割式籠(左)と従来式(右)
(浦添・宜野湾漁協魚類養殖グループ)



トコブシ簡易種苗生産施設
(北谷漁協魚介藻類生産部会)



トコブシ成員養殖棟
(伊是名村漁協)



トコブシ波板水槽
(具志川市磯根資源活用研究会)



トコブシ種苗生産棟
(伊是名村漁協)



トコブシ稚貝の取り上げをする具志川市磯根資源活用研究会の大城氏(左)と石川市漁協の泉氏(右)



トコブシ種苗生産養殖棟と
台湾式トコブシ養殖籠(右下)
(伊江漁協)

◆地
1. 平
トコ
技術
交換
て開
2. 平
3. 洋
4. 家
じの
事前
伊江
ては
順調
だの
も貝
りり
っ個
月産
種は
りり
にを